

素顔拝見



歯周診断・再建学分野

高橋直紀

平成30年8月1日付で歯周診断・再建学分野の助教を拝命しました高橋直紀です。臨床実習や学生講義、各種委員会や学部行事などで、学生さんや他科の先生方と交流する機会も増えてきたところでしたので、ちょうど良い機会と思って原稿依頼を快諾しました。素顔拝見とのことで、ざっくばらんに自己紹介します。

生まれ故郷は、自称日本三大大仏「高岡大仏」、日本の渚百選のひとつ「雨晴海岸」、ライトアップが幻想的な国宝「瑞龍寺」と、フォトジェニックなスポットが多くある富山県の高岡市という田舎町です。大学進学に合わせて、新潟市へと移り住んできました。同じ日本海側の隣県ということもあり、気候や環境への順応も早く、一人暮らしを満喫した学部生時代でした。卒後はそのまま母校の歯科総合診療部にて研修医を行い、もう少し専門的な勉強をしたいと、大学院への進学を決断しました。入局した歯周診断・再建学分野では、歯周病と全身疾患の関連について動物実験や、歯肉上皮細胞のバイオロジーについての基礎研究を通して、研究の面白さを知りました。大学院4年生の夏、研究留学のお誘いをいただき、これはまたとない機会と、留学を決意しました。行先は米国カリフォルニア州立大学サンディエゴ校の医学部免疫学教室でした。The西海岸のリゾートな雰囲気に関わられそうになりながらも粘膜免疫研究に精を出した2年間でした。帰国後は日本学術振興会特別研究員を経て、前田健康歯学部長がセンター長を務める高度口腔機能教育センターで特任

教員としてお世話になりました。その後、縁がありまして、古巣である歯周診断・再建学分野に助教として戻り、今に至ります。大学院時代からの恩師である多部田康一教授の新体制の下、研究と教育と臨床、そして少々の雑用と、多忙ながらも充実した毎日を過ごしております。

自分の性格については、よく言えば好奇心旺盛、わるく言えば飽きっぽい性格でしょうか。その性格を如実に表すように、小学校では軟式野球クラブ、中学はバスケット部、高校は硬式テニス部、大学はバドミントン部、留学先ではサーフィン、帰国後はゴルフを齧りました。広く浅くではありますが、様々なスポーツを体験できたとポジティブに考えています。そんな私でも比較的長く続いている趣味がふたつあります。ひとつは大学1年の時に始めたスノーボードです。折角やるならと、日本スノーボード協会JSBAの技術認定テストに挑戦し始め、2級まで取るに至りました（1級は一度落ちてから受けてません）。もうひとつはアコースティックギターでしょうか。大学生の時に五十嵐キャンパスでの学祭でたまたま見たコブクロのライブに感化され、数日後にアコギを衝動買いし、数か月後には工学部の友人とストリートライブを始め、雪舞う新潟駅前や古町モールでかじかむ手で夜な夜な活動したのは青春のいい思い出です。「一度しかない人生、まずはやってみる」、これは私の中で大切にしていることです。まず歯学部に入ってみて歯科の魅力を知り、大学院に入ってみて研究の面白さを知り、勢いで海外留学して新しい価値観に触れることで視野が広がりました。見切り発車な部分もありましたが、結果的には自分自身の成長につながったと思っています（そう思うようにしています）。まずはやってみる。失うものも多少あるかもしれませんが、それ以上に得るものは多いと感じています。

最後になりましたが、私の専門である歯周病学を通して歯学部、歯科界において何かしら貢献できるよう、これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



歯学教育研究開発学分野

長谷川 真 奈

こんにちは。2018年7月より、歯学教育研究開発学分野の特任助教を拝命いたしました長谷川真奈と申します。この度、歯学部ニュース平成31年度第2号編集ご担当の先生より「素顔拝見」の原稿作成につきましてご依頼いただきましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は新潟市で、本学の41期生です。学生時代には茶道部に所属していました。卒業後は新潟大学医歯学総合病院歯科で臨床研修を行い、研修修了後にレジデントとして歯科総合診療部に入局させていただきました。また、ご縁があって同年の秋より、社会人大学院生として本学の口腔生理学分野で研究に携わることができました。大学院ではヒトの嚥下をテーマとした研究を行い、口腔生理学分野の先生方に大変御世話になりながらたくさんのお話を学び、多くの貴重な経験をさせていただきました。そのことに感謝しながら現在も引き続き、口腔生理学分野で心的ストレスが顎顔面部の疼痛反応に与える影響について、吻側延髄腹内側部（RVM）の神経活動の変調を電気生理学的に検索し、その脳神経メカニズムの解明を目指して研究を行っています。

一方、歯科総合診療部では昨年より、研修歯科医の先生の診療ライター業務を担当させていただいております。ライターを担当する日は毎回自分自身も学ぶことの連続で、まだまだ頼りない部分が多いと自覚しておりますので、研修歯科医の先生や患者さんにご安心いただくことができるように、歯科医師として、指導歯科医として成長するための自己研鑽に励んでいかなければならないと思っています。また、臨床の面では、大学院時代から多くの先生方にご迷惑をお掛けしてきました

が、これまでにいただいた歯科総合診療部の先生方の温かいサポートに少しでもご恩返しができるようにしたいと考えています。

歯学研究開発学分野／歯科総合診療部は新潟大学歯学部臨床実習・新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修の両方に関わっていることは理解していたつもりですが、運営側の一端をお手伝いさせていただいて改めて日々の業務は多岐に渡り、想像していた以上であることがわかりました。未熟者のため大変微力とは思いますが、今後はこれまでお世話になったすべての先生方はもちろん、新潟大学歯学部のお役にも立てるよう努めていく所存です。御指導の程よろしくお願い申し上げます。



義歯診療科

長谷川 陽 子

平成29年4月より義歯診療科の講師としてお世話になっております長谷川陽子と申します。新潟に異動して2年弱経ちました。今回は「素顔拝見」を執筆という貴重な機会を与えて頂きましたので、自己紹介などさせていただきます。

私の出身地は富山県の小矢部市です。砺波平野の散居村に家があり、最も近い信号まで5キロ離れている、「田舎オブ田舎」育ちです。高校は高岡市だったのでちょっと都会でしたが、通学に片道1時間以上かかるためほとんど寄り道しない真面目な学生生活でした。田舎から遠いところに行ってみたい、という極めて軽い動機のもと（本命志望校が落ちたためでもありますが）、日本で唯

一の県立歯学部である、九州歯科大学に進学しました。北九州市は私にとってはすごく都会に感じました。大学入学後の新歓コンパで皿うどんを生まれて初めて食べてものすごく感動したこと（白木屋の、キャベツとコーンしか入っていない一品）、白いスパゲティがあることを知ったこと（ミートソースかナポリタンが標準）、今でもいろいろな「初めて」を鮮明に記憶しています。楽しい歯学部6年間を過ごしたのち、大阪大学大学院に進学しました。歯学部時代は北九州という土地柄のせいもあって、日々飲み会と部活に明け暮れ、真面目に勉強するのはテスト前のみという自堕落な生活をしていましたので、このまま歯医者になるのは危険すぎる、大学院とは歯医者の勉強をするところだからもう少し歯医者の勉強をしよう、せっかくなら一番苦手だった有床義歯を勉強しよう、と安直な考えで大学院進学を選択しました。大学院時代は色々辛かったので多くを語らないですが、辛かったにもかかわらずそのまま大学人生活を続け、今でも大学所属であることは、神様の思召しとでも受け取っておくしかありません。実際、高校時代や大学時代の友人は、「キモイ」と思っているに違いありませんし、最近新潟大学に異動したことを伝えると、一体何になりたいのか？などと言われます（応援しなさいよ、とは言いませんが、大学時代の友人とは辛口な生き物です）。

大阪大学でのポスドク生活を数年過ごした後、縁あって兵庫医科大学の歯科口腔外科に異動しました。兵庫医科大学は1970年代に歯学部創設に向け準備したこともあり、種々の専門医が在籍していました。私が着任した時には、口腔外科専門医はもとより、歯周・保存・歯内・小児の専門医が在籍しており、私には補綴専門医としての外来を期待されている状況で、本当に嫌というほど外来診療を経験させていただきました。また、兵庫医科大学は医科歯科連携が緊密だったため、他職種連携でいろいろなことを学ばせてもらいました。今でもその人脈と知識は私の臨床研究の糧となっていますし、新潟大学に着任後も非常勤講師として学部学生講義を担当していたり、共同研究を継続していたり、色々関わりがあります。

昨年、大阪大学大学院時代の指導教官である小

野高裕教授に新潟大学へ来ないかとお声がけ頂き、悩んだ末に新潟に単身赴任することにしました。新潟は学会で何度か訪れたことがあった以外は馴染みがなく、とても雪深い地域ぐらいにしか考えておりませんでしたので、なかなか新鮮な日々を過ごしております。着任後に起きた最も印象深い事件は、雪道で転倒して膝靭帯を断裂したことです。昨年のお雪は10年ぶりの大雪だったそうですが、その寒さと厳しさは想像を超えておりました。今年の冬も寒くて辛いですが、昨年は10月末頃から毎日寒さとどう戦うかばかり考えていて、如何にすごしたのか日々の記憶がありません。借りているマンションは天井エアコンタイプの暖房で、暖房をつけると頻繁にブレーカーが落ちるため、使用する家電を制限するか、暖房以外を諦めるかの究極の2択を日々迫られます。寒くて夜眠れないと新潟地元民に相談したら電気毛布をすすめられ、買って使って感動しました（今年も絶賛愛用中です）。雪道対策として、ダウンコート／長靴／リュックサック／帽子を新潟に来てから購入しました。そして、あともう少しで冬が終わるはずと思っていた2月9日、ブラックアイスバーンなる夜道の落とし穴で転倒し、左膝の内側側副靭帯Ⅲ度損傷（完全断裂）と前十字靭帯の完全断裂と診断を受け、2度の再建手術を行いました。思い返せば暗い雪道など、新潟に来るまで歩いたことがありませんでした。雪がつもる歩道を適度なアルコール摂取後に鼻歌まじりで歩いていたのですが、雪がない黒い道路を見て私の脳内は無意識に「歩きやすい道」と判断したのでしょう、結構な大股で勢いよく踏み出したため、つるつと派手に転びました。それだけだったら打撲だけで済んだのでしょうか、万代の交差点の中での転倒だったため、恥ずかしくて急いで起き上がらなければと思い、若干変な体勢で起き上がろうとして再度転倒し、それで膝靭帯が完全に切れました。靭帯断裂により膝下が横に動くという気持ち悪い状況を体験しましたが、周りの皆様の支援のおかげで現在回復に向け絶賛リハビリ中です。寒い地域で生活される方へ、恐れながら私からのアドバイス「転んだら 起き上がる時 気を付けて 一息ついて おちつき大事」。きれい

にまとめてみました。

以上、アカデミックなところが全く無い自己紹介となりましたが、皆様今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



歯学教育開発室

飯田和泉

2018年12月1日より歯学教育開発室の助教に拝命されました飯田和泉です。よろしくお願ひ致します。私は2018年4月に脳研究所の細胞神経性物学分野から異動して参りました。所属は開発室ではありますが、普段の研究は口腔生化学分野で行っています。出身は東京都足立区で、大学と大学院修士課程は神奈川県相模原市、大学院博士課程で新潟県へと移り住み、出産育児で神奈川県相模原市にいったん戻ったのですが、再び家族で新潟に移住し現在に至ります。

幼少期はジブリ映画「風の谷のナウシカ」の主人公ナウシカが好きだったようで、男子顔負けの強さと行動力さらに自己犠牲を厭わない姿勢に憧れていました。またナウシカは、腐海という吸うと五分で死に至る猛毒ガスが放出されている森に赴き、そこに生息する菌の胞子を採取し持ち帰り栽培するという、非常にエキセントリックな側面も持っており、まさに研究者として見惚れるべき存在です。ナウシカに憧れていたもので、周りの子と少し違った不思議な子だったようです。

中学高校は品川女子学院という女子校に通っていたため、おしとやかになると両親は期待したのかもしれませんが、男子の評価を全く受けない女子だけの空間に甘え、恥じらいというものを失った野性的な日常を送っていました。おかげで痴漢には全く合わない電車通学でした。打ち込んでいた部活は特になく、放課後友人と遊ぶことが日課の日々でした。そのように過ごしていたからか、勉強はあまり熱心な方ではありませんでした。

しかし、あるとき高校の生物の授業で当時行われていたヒトゲノム計画から分子生物学というものを知り、将来は研究がしたいと漠然と考え、北里大学理学部の生物科学科に入学しました。北里大学は神奈川県相模原市にあり、自然に恵まれた場所でのびのびと過ごしました。学生時代はアウトドア部に入り、キャンプ（野外で飲む）を月一回行う、非常に文化的な部活動を行っていました。特に夏は伊豆七島の島に部員で行き、スキューバダイビングや釣り・モリで魚を捕り食べるという、黄金伝説（テレビ朝日系バラエティー番組）のようなキャンプ生活を一週間ほどして過ごしていました。

学部4年から北里大学医学部生化学研究室に配属し、そこで神経科学に魅せられ研究生生活にどっぷりハマりました。高橋正身教授に修士課程までお世話になり、生化学実験の基礎を学ばせてもらい、マウスの脳タンパク精製・大腸菌でタンパク質合成と精製・モノ・ポリクローナル抗体作成・神経細胞培養などを主に行っていました。その後、行動レベルで脳高次機能の理解を深めたいと考え、新潟大学脳研究所の崎村建司教授のもとに博士課程で進学しました。そこでは遺伝子改変マウスの作製の全工程の手技を教えてもらい、実際に自分が作製したマウスの行動解析バッテリーや生化学的解析を行っていました。2017年の育休中に崎村教授が退官するというので、研究生命がどうなるかと少しか不安でしたが、ありがたいことに2016年8月に口腔生化学分野に着任された照沼美穂教授をご紹介して頂き、助教のポストを頂き研究者として働くことができています。口腔生化学分野は、若くエネルギーかつ聡明な照沼教授を始め助教二名と大学院生二名で構成された少数精鋭のラボです。皆、毎日フルスピードでデータをだし、週一回教授とディスカッションをしながら研究を進めるべく頑張っています。私の専門は神経科学で、研究目標を本当に簡潔に述べると、なんで不安になるのだろうか？という疑問を、マウスの行動と分子機構の両方で解明することを目指しています。

最後になりますが、この新しく恵まれた環境で仕事ができることに大変感謝しています。今後さ

らにいい仕事をしていきますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。



小児歯科学・障がい者
歯科学分野

中 島 努

平成29年度6月1日より、小児歯科学分野の助教に拝命いただきました中島努と申します。新潟大学の出身（42期生）でして何度か歯学部ニュースに執筆させていただいたことがありご存知のかたもいらっしゃるかもしれませんが、まず初めに自己紹介をさせていただきたいと思っております。

私の生まれは、富山県の上市町出身です。どこかわからないという方も多いと思いますが、有名なところでいえば映画の「おおかみこどもの雨と雪」の舞台になった町です。鑑賞された方はわかるかと思いますが、自然が豊かな町で田畑が多く最寄りのコンビニまで自転車で15分かかるような場所に住んでいました。

中学からはソフトテニス部に入部し、テニスの魅力にどっぷりとはまり中学高校の6年間はほぼ毎日テニスばかりの日々でした。大学に入学してからはソフトテニスをやめ、硬式テニス部に入部しました。ちょうど二学年上に元日本ランカーの先輩がいらっしゃったこともあり、大学でも暇さえあればテニスに明け暮れておりました。部活以外では42期生の学年幹事として42期生の取りまとめ役となり、また歯学祭の実行委員長などを務めさせていただくなど、充実したキャンパスライフだったなと思っております。

そして卒業後は、研修医として半年間小児歯科学分野で研修し、残りの半年は大阪の開業医にて研修をさせていただきました。研修先では、歯科治療の技術を学ばせていただいたり、おいしいお店に連れて行っていただいたり、私の妻と出会ったりと様々なことがありました。大阪での研修を終えたのちに、小児歯科学分野へ大学院生として

入局させていただき今に至ります。

今現在の趣味の話になりますが、食べることが大好きです。休みの日には妻と2人で、おいしいお店や喫茶店を探しています。しかし、現在の問題は大学を卒業し、運動する量がめっきり減ったうえに、食べることが好きときたものですから私の体重は大学卒業後右肩上がりになってしまっていることです。これではまずいと新たな趣味としてロードバイクを始めました。新潟は直線の道が多く、景色もいいことから晴れた日にはよくサイクリングに出かけたりなどしていますが道中で美味しそうなものを見つけると誘惑にまけて食べてしまい、あまり減量できていませんが…。

このような話ばかりでは、仕事はどうなんだという声も聞こえてくるかと思っておりますので、研究と臨床の紹介をさせていただきます。私の研究は三次元動作解析をメインに研究を行っております。大学院生時代は歯磨き時のブラッシング運動について研究を行い、現在はモーションキャプチャーを併用した捕食動作の運動解析をテーマに研究に励んでおります。臨床では昨年11月に障害者歯科学会の認定医を取得し、現在は小児歯科学会の専門医の取得に向けて日々の診療に邁進させていただいております。

最後まで私のつたない文章を読んでいただきありがとうございます。まだまだ、一人前と呼ぶには程遠い身ですが日々精進し、臨床、研究と小児歯科学分野の助教として歯学部、病院に貢献できるよう研鑽してまいります。みなさま、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



小児歯科・障がい者歯科学分野

村 上 智 哉

皆様こんにちは。2017年に小児歯科・障がい者歯科で助教を拝命しました、村上智哉と申します。2012年に出身地である福岡県を離れ、生後1か月の第1子を含む家族で新潟県に参りました。新潟での日々は慌ただしくも、まもなく8年目となります。新潟での暮らしに関して、私のお気に入りを紹介させていただきます。

—春—

新潟の春は、厳しかった冬に終わりを告げるあたたかい風と共にやってきます。加治川沿いの桜並木は、まだ残雪がある山々を背景に絶景です。5月を過ぎると渓流釣りも解禁となり、多くの釣り師たちが岩魚を狙って訪れますが、私も興味がありつつまだ機会を持っていません。雪が溶け出し、山菜採りがシーズンとなるとたらの芽、こしあぶら、こごみなどをいただくのですが、旬の素材が楽しみです。苺の越後姫はこの上ないほど甘くて格別です。最高級品で粒の大きいものは地元では出回らず、東京などに送られるようですが、幸運なことに毎年美味しいものをいただきます。以前住んでいた聖籠町はサクランボやブドウなども有名で、シーズンになると農園の周りは車や観光バスで混雑し、各種フルーツはいずれもとても美味しいです。

—夏—

新潟の梅雨は短く、気がつけば夏となります。旭町キャンパスから海はすぐ近くにあり、新潟大学あゆみ保育園の子ども達は、夏になると徒歩で海に行き、夏を身体いっぱいを感じるができます。我が子も保育園で幼い頃から海に親しみ、海が大好きです。そんな日焼け姿をうらやましいと思いつつ、病棟12階の職員食堂から佐渡が見える日は清々しい気持ちになります。

—秋—

お店に新米が並び始めると、今年の新米は何を食べようかと考えてしまいます。医局にも案内がくる、新潟大学農学部のお米を購入するのもささやかな楽しみです。11月を過ぎると鮭の遡上が見られ、いくらの醤油漬を各家庭で作るのも新潟では一般的のようです。私も年1回は作ります。アニサキスが心配な方は、醤油漬にした後は48時間冷凍をお勧めします。菊の花が出回るのもこの頃です。食用菊は、新潟では黄色と紫色を多く目にしますが、花びらだけをちぎって、味付けをして食卓に並べると華やかです。ほんのり酔がきいた味が好みで、これまたご飯が進みます。

—冬—

11月も後半になると車のスタッドレスタイヤ交換はいつにしようかと悩む日がやってきます。雪のある生活にもだいが慣れてきました。2018年2月の大雪が記憶に新しいですが、その際には、厚着をした上に、学生時代に屋久島登山で使用していたゴアテックスのレインコートを着て、雪をかき分け、子ども2人を担いで出勤しました。途中、雪でスタックしたタクシーを救出しました。新潟では、人々が当然のように助け合う様子は素敵だと思います。

冬は大変なことばかりではありません。蟹や鰯など海の幸や、冬菜などの美味しい食材がいっぱいあります。新潟のお正月には、鮭をはじめとした多くの具材を用いたお雑煮、そしてこれまた野菜たっぷりの郷土料理であるのっぺを食べます。豊富な栄養で元気が出ます。お餅もよく食べますが、私の出身の福岡の丸餅とは形が違い、角餅が一般的です。形のみならず、もち米も異なるのかとても美味しく、1回の食事でも5個は食べてしまいます。また、餅にかけるものは福岡では砂糖醤油、肌色のきな粉や大根おろしでしたが、新潟では緑色のきな粉や餡子などで、やはり食文化の違いを感じます。

以上長くなりましたが、今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。



2018年2月 旭町キャンパス内